

6月15日（日）主日礼拝レジュメ 使徒の働き4章1～4節

祭司、宮の守衛長、サドカイ人は、ペテロが勝手に宮の中で人々に向かって説教をしたことを宮の秩序を乱したと考えたとともに、2節で「イエスのことを例にあげて死者の復活を宣べ伝え」たことを問題とした。しかし、いくら弟子たちがキリストがよみがえったと言っても、キリストの死体を見せれば、弟子たちの宣教は何の意味もなくなるし、誰も相手にしなかったに違いない。また、キリストの復活の大勢の証人もいた。それゆえ誰もキリストのよみがえりも、キリストがメシヤであることも否定できなかった。

4節でペテロのメッセージに応答した人たちが5000人ほどになった。

① 2章41節「彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた」

② 2章47節「主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった」

③ 1章15節「120人ほどの人々が一つになって集まっていた。」＝神様がこのようにして加わる者を起こされた。＝イエスキリストを救い主と信じる新しい共同体が打ち立てられた。→キリストを信じる信仰のゆえに生まれつき足の不自由な人が癒された事実と、キリストとして定められたイエスが、十字架にかかられたけれども三日目によみがえられたこと、そしてキリストは旧約聖書に預言されたまことのメシヤであること、この方はイスラエルの民を悪から立ち返らせ、祝福にあずからせてくださる方であり、それゆえに悔い改めて神に立ち返るようにとの悔い改めのメッセージを語った時に人々が応答した結果。

教会が語り続ける宣教のメッセージだけはどんなことがあっても絶対に変えてはならない。変わらないメッセージとは、キリストは人類の罪のために十字架にかかって死なれ、三日目に死からよみがえられたこの方こそ私たち

の救い主であること、そしてこの方を信じることにより、私たちは悔い改めて神に立ち返らなければならないことをみことばから語っていく。このメッセージに応答することにより人は救われる。

人を救いに導くのは神の働きであって神は十字架のメッセージを通して働かれる。

④ コリント人への手紙第一 1 章 2 1 節「それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。」これは今も真理です。

⑤ コリント人への手紙第一 1 章 2 3 節「しかし私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。」

⑥ コリント人への手紙第一 1 章 1 8 節「十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」十字架のことばを語り伝え続ける。そして、救われた私たち自身が、回りの人々にとっても大きなメッセージとなる。